

平成29年2月22日

島本町立第二小学校
校長 中村 りか 様

島本町立第二小学校学校協議会
会長 坂東 俊枝

平成29年度の学校教育活動への提言

平成28年度の5回の学校協議会を踏まえ、下記のとおり取りまとめましたのでお取り計らいを願います。

記

私たちは、第二小学校学校協議会委員として子どもたちの「学びと育ち」に関わり、学校の教育活動について提言できることに大きな意義を感じています。

子どもたちの健やかな成長のためには、学習環境が大変重要であり、施設面はもちろん、周りの大人たちの働きかけが不可欠です。そのためにも、学校の施設面及び人的な環境整備を行いつつ、教職員と保護者、そして学校に関わる地域の方の協働が必要です。

子どもたちに「知」「徳」「体」とバランスの取れた力、すなわち『生きる力』を育むことは学校教育の目標でもあります。子どもたちが意欲を持って学び、豊かな心を育み、心身ともに健やかな体に育つよう全教職員が力を合わせ、意図的・計画的かつ組織的に教育課程を実施し、質の高い教育活動を創造されることが望まれます。そして、学校を拠点としながら、保護者、地域の信頼と協働の上に立ち、実践されることで、子どもたちに『確かな学力・豊かな心・健やかな体』を育むことができると考えます。

① 確かな学力の向上

各授業で「自ら考え、まとめ、発表する」機会を増やすとともに、文章を書くという機会も多く取り、言語能力や表現力を高める指導もお願いしたい。この力は、国語科だけでなく、他の教科でも必要な力だと思います。また、身体を動かして表現する方法や音楽劇等を単元構成に加えると、心を開放する場にもなると思いますので今後ともそのような指導の推進をお願いします。

2002年の学習指導要領の改訂に向けて、アクティブ・ラーニングという言葉がここ数年きかれるようになりました。本校においても教員が能動的に新しい学習方法について学び、取り入れていってほしいと思います。今学校に求められているのは学力の部分だけではなく、社会的な役割の部分でもあると思います。知識の伝達だけなら通信教育でもeラーニングでも塾でも家庭教師でも学ぶことができます。しかし、学校で学ぶことの意義は、人と人とのコミュニケーションを通して社会的

な能力を高められるというところにあります。アクティブ・ラーニングを行うのに重要なのは教員と児童、児童と児童の活発なコミュニケーションです。これはどちらが先ということではなく、アクティブ・ラーニングでコミュニケーション能力も向上するし、コミュニケーション能力が向上すればアクティブ・ラーニングもより活発になるということだと思います。

英語教育については、PTA行事等でも学習のプラスになる工夫がみられとてもいいと思います。しかし、授業以外でも、英語で自己紹介をしたり英語で挨拶をする日を決めたり等、さらに英語になじむ工夫をされると学習効果もあがると思えますし、マンツーマンの指導はおおいに効果があがると感じます。英語は特に地域力を巻き込んで欲しい科目であり、それが中学英語へ続くことを期待しています。

しかし、なんといっても国語力は英語や他教科の理解を深める上で最も大切な授業であり、集団づくりのうえでも言葉で感情を表現し相手にいかに伝えるかということは重要です。また、読書は想像力を養うことで相手の気持ちを汲み取ることを可能にし、様々なことを体験させてくれます。さらなる学校図書館教育の研究・推進を望みます。朝の読書タイムや図書館司書の活用等工夫をされていますが、継続して国語力アップに繋がる取組みをしていただきたい。

② 学校に対して

学校教育自己診断は、項目によっては質問の意図をはかりかねるものもあります。それを理解したうえで、数字に惑わされることなく、冷静な判断を行っていただきたいです。「学校に行くのが楽しくない」「授業がわからない」という項目で2割強の児童が存在することを重視し、その原因と分析と改善にご尽力いただきたい。

PTA活動等をしていると学校の様子はよくわかりますが、仕事をしている保護者や地域の方々はなかなか学校の様子が見えないと思います。学校のことを知り、興味関心を持ってもらうことで積極的な関わりが望め、保護者や地域の方々の活力を学校運営に活かすことができます。そのためにはまず、更新が滞りがちなウェブサイトには常に新しい情報を掲載していく必要があります。更新しないウェブコンテンツというのは閲覧者に負の感情を与えかねません。常に最新の情報が発信できるウェブサイト運営を望みます。自治体や学校がFacebookを活用している事例は多くあります。島本町でもFacebookを活用していますので、参考にしてみるのも良いかと思います。次に必要なのはデザイン力や発信力であると思います。特にパソコンではなく、スマートフォンからの閲覧にも対応できるようなレスポンシブルデザインのウェブサイト構築へ向けて取り組んでいただきたいと思います。

また、ウェブサイトだけではなく学校便りを自治会等にも配り、回覧してもらったり地域掲示板に掲示したり、ウェブを利用できない人々にも情報発信ができるような手段も引き続き必要です。

2小の特殊性に係っては、教職員の異動についてもどこまで考慮されているのでしょうか。経験と力量のある教員を定着させるとともに経験年数の浅い教員を育てる体制を確保するべきだと思います。また、遙学園の児童に対する配慮が特別扱い

になったり、逆差別と他の児童や保護者から思われたりすることのないよう気を付けていただきたいと思います。

③ 先生に期待すること

学級等で発生する課題や問題については、担任だけで抱えることなく、教員同士の連携をしっかりと図り、適切な対応をしていただきたいと思います。また、大きなトラブルが発生した場合は、今後も早期対応と保護者への丁寧な説明をお願いしたい。

現在の教員は多忙だといわれています。教員は日々の授業を通して児童に対してアウトプットはするものの、本を読んだり、違う業種の人と話をしたり、趣味に時間をかけたり、社会の変化を感じる感性を磨いたり、自己投資をして教員としての専門性を高めるインプットや自分の内面を高めるような余裕を持っているでしょうか。ワークライフバランスの適正化に取組み、自己研鑽や心身のリフレッシュを行う時間を確保することが、児童への質の高い教育に繋がると考えます。

④ 地域との連携

学校は、地域との結びつきが緊密であり、また、保護者や地域の学校に対する関心も高い。加えて、地域の力が子どもたちの「学びと育ち」のための大きな助けにもなっています。保護者や地域との更なる連携を進め、交流を深めるためにも、積極的に地域行事やPTA行事への参加をお願いしたい。

「八宝祭」は、展示・イベントとも、回を重ねるごとに積み重ねを感じるイベントになっていると思います。二中からの展示にも、ここ数年の「つなギングスクール」の成果を感じます。

学習面においても地域力を教育課程に取り入れる工夫がなされ、「地域との連携」「地域力の活用」が実を結びつつあると思います。ただし、ようやくその端緒が見えてきたという状況ですので、次年度以降それをどう定着させるか、地域力の活用はいかにあるべきか等の課題に対して、取組みの継続をお願いしたい。また、「地域力の活用」という観点からは、コーディネーターの存在が大きな位置を占めると思われますが、「絆」の存在は大きな力となっており、今後も発展的な継続を望むところです。

その他、学校の設備面等でも地域の協力を得て、児童の様々なアイデアを具体化されています。今後も斬新な発想で児童のためになる工夫を考えていただきたいと思います。手伝いが可能な保護者・地域の人及び団体は多いと思います。

⑤ 安全について

安全ボランティアの方々へは、大変感謝しています。しかし、あくまでもボランティアと善意での活動であるとの認識にたち、子どもたちの安全を守るための子ども自身への教育と、保護者への啓発をお願いします。

携帯電話の使用が低年齢化してきている中、使い方次第で起こり得る児童への危険性については今後も発信していただきたいと思います。

⑥ その他

指導上課題の多い子どもへの学習指導や生活指導等において負担は大きなものと思いますが、先生方におかれては、保護者・地域の要望に対して、精一杯答えるよう努力されています。その実態をしっかりと把握され、教育環境の充実に向けて町として取り組んでいただきたい。また、今年度、地域の多種多様な人材が学校に入っており職員とも連携がとれているようです。学外の人との連携はたいへんな点もあるうかとは思いますが、来年度も同様に取組まれていくことを要望します。

2クラスの学年が増え、教室の後ろにまで机のある状態は決して望ましいものではありません。先生一人に対応できる人数も限られています。できるだけ少人数のクラスで授業ができるように、町への独自の働きかけがあってもいいのではないかと考えます。特に課題が多い二小の現実は配慮していただきたい。

*キャリア教育のより一層の充実を

*教育メソッドとしてのテーブルゲームの活用

- ・思考力やコミュニケーション向上に役立つといわれている。
- ・テーブルゲームの他に囲碁や将棋も

*海外に学ぶ

- ・フィンランドメソッド
- ・フランス
高校での哲学の授業
「正解のない問題」について自分たちの頭で考え、話し合う。
- ・アメリカ
クリティカルシンキング

最後に、本提言に対しての学校としての具体的な方策、教育委員会からの回答などについて、年度初めに説明をいただければ有り難いです。